

イギリス連合王国の幼児教育の研究〔XL〕

——Voucher Scheme 導入の発表から全国実施に至るまで (2)——

山 田 敏

Studies of Early Childhood Education and Care in the United Kingdom〔XL〕

—From Launching to Full Roll-out of the Voucher Scheme (2)—

Satoshi YAMADA

(承前)

……質へのかかわりの放棄*

パートタイムに対してもフルタイムに対しても共に、もし大人対子どもの比率が悪くされたり、教育的要素が薄められたりしない限りは、1100ポンドは必要なコストに應えるためには少なすぎるであろう。

Gillian Shephard はその声明の中で、政府が大人対生徒の比率の問題や、施設や設備などに関する規則を“見直す”であろう、ということを示した。児童法の実施に関しての“light touch”（軽いタッチ）の検査の約束と並んで、政府は現在の質に関する規則をゆるめ、その代りに、あいまいな検査システムを導入することを考えていることは明白である。

選挙前のわいろ

保守党員たちは、1100ポンドが与えられたと信じている人々をあてにしている。多分あるであろう1997年の春の総選挙への準備段階において郵便受けを通してヴァウチャーが到着する時、政府は彼らが大当りのくじを当てたと信じることを期待している。われわれは、この詐欺的戦略を明らかにしつつあり、また、ヴァウチャー計画は無料の提供に対する更なる攻撃の危険な序曲であることを、実例で説明しつつある。

紙の上の約束であり、新しい席を提供しない

ヴァウチャー計画は、国内の多くの地域において新しい席が創設されるわけではないので、現在の提供が事実上おびやかされている時に新しい席が提供されたと親に思いこませるトリックを意図した“紙の上の約束”以上のものにはならない。

就学前の提供は、England and Wales の若干の地域における22%から、他の地域における97%まで幅がある。England だけでも、全く——あるいはほとんど——ナーサリーの提供を利用できない200以上もの“黒点地域”がある。政府の計画は、この問題の上を上すべりしている。

* 本稿は、紙数制限のため途中で切った引用資料の続きから始まっている。

現実とは言う、良い提供に投資をしてきた地方当局は分け前にありつけず、他方、そうでなかったところも、何らかの実質的な変化があるようには見えない。需要に対する席の余剰を持たない多くの地域では、親は“選択”を全く持たないままであり続けるであろう。新しい建物あるいは施設、設備、あるいは教員の訓練に対して支払われる始動資金は全く利用され得ない。この種の投資や、特に有資格のスタッフへの計画的な拡充がないならば、価格を引き下げるといよりも、むしろ不足する資源への需要が、かえって価格を引き上げるであろう。

教育のためよりも官僚主義のための金

保守党員は全ての4歳児への提供のための総額7億3千万ポンドを公表したが、その4分の1の1億8千500万ポンドのみが新しく投入される金である。このうち2千万ポンドは運営と検査に向けられる（それは保守党の数字に基づいてさえも、新しい官僚主義を運営するだけのために1千万ポンドを必要とすると見積もられている）。1億6千500万ポンドは、声明中の言葉によれば、“国の提供するセクターでの何らかの提供を受けていない15万人かそこの4歳児”に対して新しい席を提供するために向けられる。

政府自身の数字では、これらの“国の提供するセクターの中にいない15万人の4歳児”の大多数は、すでに私立および／あるいはボランティアのセクターでの提供を受けている12万人から成っており、2万7000人のみが全く提供を受けずに残っている、ということを示している。従って、新しい金（1億3千200万ポンド）のほとんど4分の3は、現在私立ないしボランティアのセクターの提供のためにお金を払っている親への単なる補助金である。しかしながら、そのことは、ヴァウチャーを受けとる資格を与えようとして彼らを登録させるために、有資格スタッフの需要を再び増大させるであろう。

明らかに、ヴァウチャー計画はわれわれの全ての子どもたちへのナースリー教育の機会を拡大することにほとんど関係せず、選挙民をあざむき、責任のある高い質の、国のナースリー提供へのかかわりを崩す試みと結びついている。

3歳児のための提供への脅威

この計画は3歳児のためには何もせず、3歳児はますます席を持てなくなると思われる。3歳児の45%（国のセクターの41%）のみが現在提供を受けている。3歳児の家族がヴァウチャーを発行されたと仮定しても、1100ポンドはハーフタイムのナースリーの提供に対してすら払げられないであろう。

さらに、地方政府からの資金の引き上げは、多くの労働党支配の当局によって3歳児のためにすでになされつつある提供への脅迫をもたらすであろう、という非常に現実的な危険がある。この計画はこういう具合であるので、5億4千500万ポンドは地方当局から回収されつつあり、ヴァウチャーを通して再使用されようとしている。

Gillian Shephard は、どの4歳児も現在の席を失うことはないであろう（地方当局がどのようなコストを“補給”することが期待されるかは決して明確でないにもかかわらず）ということを公言したとはいえ、3歳児に対して支出されている資金を守ることに関する保証は与えられていない。

ヴァウチャーの価値は、平均的な就学前の席のコストの半分に達していないので、地方当局は5歳未満児予算に関して残されている予算に頼らざるを得ないであろう。つまり、地方当局がすでに提供し続けてきた4歳児のための提供を維持するためには、3歳児の提

供をカットすることを地方当局に強いることになる！

官僚主義的な書類準備

維持就学前提供 (maintained pre-school provision) のための資金が LEA を通して直接的に提供されることに代って、ヴァウチャー資金は政府から私立の特殊法人を通して注がれ、紙の上の約束という形式で親に振り出される。多くの場合、このヴァウチャーは単に学校または LEA に渡され、それは代理店に返され、最終的に政府によって償還されるであろう。

現在の小学校およびナーサリースクールは、以前は給与の支払いや運営費のための全体的な支払いの一部として彼らのところへ来た金を、これからは要求して戻してもらうことにする彼ら自身の運営システムを作らなくてはならないであろう。時にはこのことの多くが、もっと広範囲の学校の提供の一部としてなされるし、従ってまた、非常に現実的な経理事務上の困難を生み出すかもしれない。これらのいずれもが、政府の官僚制度の原価計算によって計算されていない。

驚くことではないが、Gillian Shephard はこの機構を“扱いにくい” (*Independent*, 1994 年 10 月 19 日付) として反対していることが記録されている。それ故、先導的試みがなされる間、18 か月の遅れが出た。

労働党の公約

労働党はヴァウチャーの官僚主義的浪費をやめ、ヴァウチャー計画への 1 億 8 千 500 万ポンドの言質は、幼い子どもたちのための現実の席を提供するために使うことを実現するであろう。高い質のナーサリー教育を全ての 3 歳児および 4 歳児に提供するというわれわれの約束は、単なる紙の上の約束ではないことを確実にするために、われわれは新しい席への投資に目標を置くであろう。より多くの親やその子どもたちは、労働党と共にいる時には得るものがあるだろう。

従って、労働党の国務大臣の最初の優先事項は、ナーサリー教育のドラマチックな拡張であろうということを十分に明らかにした。われわれは、このような不可欠な提供を発展させるための先導的試行を行ってきた労働党支配の地方当局に圧力をかけようとしてきた (Gillian Shephard が同僚に出した 1995 年 1 月 25 日の手紙についてのよう) に政府に逆らって、5 歳未満児のために提供を続けている労働党支配の LEA の素晴らしい記録を踏まえてそれを構築したいと思っている。

政権の座についた場合の労働党は、「幼い子どもたちのための政策」の一部として詳しく説明されたところの、“包括的”支援とケアの提供と次第に結びつけられるであろうところの質の高いナーサリー教育の席を、全ての 3 歳児および 4 歳児が受けとれるようにする明確な目標を設定するであろう。これは、高い質の提供をしながら家族と共に活動をする継ぎ目のないサービスにおいて、ケアとナーサリー教育の提供とを統合することを目指すであろう。

われわれは、統合された幼い子どもたちのためのケアは、個々の子どもたちのため、彼らのこれからの発達のため、また、成功する機会のために、正当 (right) なものと信じる；それはまた、家族と共に働き家族のために働くことの中で必要とされる支援や発達のために正当なものとして信じる；それはまた、われわれの経済戦略と機会均等における基本的な要素であるので、多くの女性が再び労働力として戻ったり家族の収入に貢献したりすることを可能にするであろう。これは保守党のヴァウチャー計画とは著しく異なるものである。

前進への道

政府が持っている弱点を暴露するという労働党の戦略に対して、先週彼らはあいまいな反応しか示すことができなかった。われわれは、ヴァウチャー計画が中身の無い紙の上の約束のためのものであることを親が確実に知るようにするために、これから数か月間にわたって圧力をかけ続けるであろう。この課題において、われわれは皆様方のご尽力とご援助とを歓迎するであろう。」（「カッコは前号にあり」）

これまで見てきたように、1995年7月7日のThe Guardianの“貧弱な逆行的計画”と題するVoucher計画への批判的説明は、この計画が持つ大きな欠陥を具体的に指摘している。Dr. Julian Puhgの批判は抽象的ではあるが、就学前教育が教育とケアの統一の実態を提供するものでなくてはならないことなどの点から、従ってまた、そのための長期的な計画を必要としている点などから、Voucher計画を批判している。影の文部大臣のD. Blunkettの前掲の批判も、Voucher計画実施に伴う不可避的な問題に目を向けて批判している。ただし、労働党が与党になった場合の政策については、全く抽象的で雲をつかむような状態である点は頼りない。

Voucher計画がShephard文部大臣によって打ち上げられてから間もない時期の関係者の反応は、もちろん賛否両論である。発表から4週間たった時期におけるそれぞれの側の利害関係のからんだ見方は、イギリスの保育関係の新聞Nursery Worldの1995年8月3日のPhilip Braidwoodの記事「Vouchers：言葉の戦争」で具体例として報告されている。それは我々にとって意味のある内容と思われるので、以下にその概要を示しておく⁸⁾。

——政府の新しいナーサリー計画の詳細については、まだ最終決定されていないが、4歳児が就学前教育を受けるために、その親に1100ポンド相当のvoucherが提供されるであろう。しかし、その声明は既にチャイルドケアの専門家たちを分裂させている。

イングランドでは4万2000人の3歳児および4歳児が私立のナーサリースクールに通っており、さらに4万5000人が法で定められた以外の私立のデイナーサリーに通っている。

全国私立デイナーサリー連盟（the National Private Day Nurseries Association = NPDNA）の副会長であるAnn Beadleは、“我々はVoucher計画について喜んでいる。それは健康な競争を刺激するであろうし、親達に真の選択権を与えるであろう。”と述べた。

彼女は、vouchersは授業料や保育料をその上に上のせできないような貧しい人々を犠牲にして、恵まれた人々を助けるであろう、という見方に同意していない。“人々は私立のデイナーサリーを利用する人々は経済的に恵まれた人々だと思っているが、そうではない。彼らは我々が提供する時間が彼らの仕事にマッチしているからである。多くの公立のナーサリークラスが1日に2時間半のサービスを提供しているにすぎないので、親たちは公立の無料の席を利用しながら、我々の席も利用しているのだ。将来は彼らは子どもたちのための全国のデイクアのサービスとして我々を利用できるであろう……しかも、生後6か月から子どもが小学校へ入学するまで。そうなれば、子どもたちはふたまたをかけなくてもすむ。”

Jane Ormeはダービーシャーの三つの私立デイナーサリーの経営者であるが、彼女は、“喜ばしいことです。我々は学校と同じゴールへ向って働き、一層リラックスした雰囲気教育をする”と言う。彼女はvouchersを持った4歳児に好都合のプログラムを頭に描いている。“それは新しい構造を作り出すであろう。我々は子どもが4歳になった時に多くの子どもを失うだろう。彼らは多分、週に3日の午前中に小学校へ行き、残りの、週に7セ

ション（1セッションは2.5時間程度の時間帯）を我々のところに来るであろう。将来は、そのような子どもを小学校入学に至るまであずかることになるだろう。”

しかし、私立の保育施設の増収は、公立のその減収となり得る。そのことが vouchers に激しく反対している LEAs の心配の一つである。公立のセクターにおいては1200以上のナーサリースクールと5500強のナーサリークラスが LEAs の所轄下にある。親は vouchersのおかげで一層安価な席を求めることになり、結果的に vouchers は公立セクターの席をカットすることにつながる心配がある。

大都市当局協会（the Association of Metropolitan Authorities）は68の地方当局から成っているが、その事務局の一員である Julia Bennett は次のように言う。“大臣の Gillan Shephard は、親が引き続いて LEA ナーサリーを選び続けることを前提にしている。しかし、私立セクターのサービスの提供は、サービスの水準や質を切り下げ、従って、我々が払っている費用の価値を切り下げたてしめし得ることを恐れる。” また、次のようにも言う。“我々はいかにして追加の席を提供し得るか？ 追加の教員や資本投入のための資金は全く割当てられていない。地方当局はある限度を越えて借金をすることができないので、これは我々を不利な状況にしている。それにもかかわらず、この計画の施設・設備は巨大な拡張を必要とする。

もう一つの vouchers に反対する声は、公立教育推進協会（the Campaign for State Education = CASE）から起っており、この団体は秋に voucher 反対行進を計画している。CASE は the Early Childhood Education Forum に参加する35の団体の一つとして代表を送りこんでおり、この Forum は voucher についての声明が出されるに際して3回にわたって担当長官達と協議をしてきた。CASE の Melian Mansfield は、“我々は怒りに燃えている。なぜならば、長期にわたる協議の中において、vouchers は全く議論されなかったからだ。それは全く青天の霹靂である。” と言い、“我々は vouchers がサービスの提供において失敗するのではないかと思っている。” と言う。

今までよりもっと多くの席が生まれるかどうかという問題に関しては、voucher 賛成のロビー活動家達はマーケットの需要がサービスの提供における上昇をもたらすと信じており、また、競争によって水準の上昇と価格の低下をもたらすと信じている。しかしながら、voucher 計画をボイコットするとおどしをかけた就学前教育連盟（the Pre-school Learning Alliance）の執行委員長の Margaret Lochrie は次のように言う。すなわち、“それがさらなる席を生み出すかどうかについては我々は懐疑的である。というのは、スタート時におけるコスト（start-up costs）は非常に高くつくからである。現時点における我々の主要な関心は、プレイグループが voucher に関して問題の買戻し額を得られるようにすることである。今の計画では、プレイグループはナーサリーの、すなわち国の法律に基づく席は1100ポンドであるのに対して、半日のそれぞれの席に対して550ポンドしか受けとれないであろう。”

現在は就学前教育の提供を受けていない15万人と推定されている4歳児、すなわちこの年齢の10%の子どもたちにサービスが提供されるためには、プレイグループの協力は必要な席を提供するために、緊急に必要なことである。実際的な支援を提供している全国幼児ネットワーク（the National Early Years Network）の委員長の Judith Stone は、プレイグループは550ポンドしか得られないように見込まれていることに憤激している。そして、もし全額が支払われれば、田舎のプレイグループは条件を改善し、訓練のための費用にも当て

られるかもしれないが、多分そうはならないであろう、と言う。不明なもう一つの点は、vouchers を受けるためにデイナースリーは学校になる必要が生じるのかどうかという点である。もし、その必要が生じるならば、ケアと教育の統一は被害を受けるし、特に3歳児に被害が及ぶであろう、と言う。

イギリス幼児教育協会 (the British Association for Early Childhood Education = BAECE) の議長の Cynthia James は Voucher 計画に強く反対する。“これは政府が教育に対する支出を減らす一つの仕組みと思う。国で定めた一つの席には、年に2500ポンドかかる。政府が削減する資金のある部分は、暖房、給与、照明、建物のためのものである。追加の席は適切な訓練を受けていない人々によってもたらされるかもしれないし、例の“light touch”の検査によって質は低下するであろう。全てのことがまるで鉛の風船のように低下すると私は思う。”と。

ロンドンにある Goldsmith's College の幼児教育の講師の Vicky Hurst も同様に悲観的である。“それは悲劇的な失敗である。彼らは the Early Childhood Education Forum からの助言を得てきたが、この Forum はほとんど8歳未満児のための団体の代表者から成り、私はカリキュラムのガイドラインについて意見を出してきたが、それに対してはほとんど注意を払わなかった。4歳児の80%以上がすでに infant school のリセプションクラスにいる。vouchers は彼らに対して何もしないであろう。それは、不適切なセプションクラスから子どもたちを出して、彼らをナーサリーの環境へと入れることはないであろう。”と言う。

水準の低下という点に関しては、彼女はその可能性を次のような観点から指摘している。“国務大臣は資格や大人と子どもの比率を‘見直す’ (‘revisit’) であろうし、スタッフの数やその資格を向上させるための追加的な必要条件は出さないであろう。それにもかかわらず彼らは15万人分の追加の席を提供するという。訓練を受けたスタッフ抜きで、いかにしてそれが可能なのであろうか。彼らはまた、‘見直す’ (‘revisit’) であろうが、この言葉は、大人対子どもの比率、施設や設備、サービスの提供者の必要条件に対する基準を下げることを意味している。‘指定された学習’目標 (‘stated learning’ objectives) ということが語られているが、我々はこれは5歳児のカリキュラムへの正しい道ではない、ということを手言してきた。正しい道は、遊びと探究 (play and exploration) を通して学習を支えることを必要としている。彼らは‘良く振舞う’ことや‘ルールに従う’などの、もっと指示的で狭いやり方を心に描いている。”と。BAECE の Cynthia James はこれに同調する。そして、このように言う。“圧力がかかる中で、私は30年にわたってナーサリークラスを作るために戦ってきた。vouchers は特に LEA を突き崩しかねず、vouchers への怒りをこめた反抗を私は期待する。”

議論が高まり、提供者同士の競争が激化するにつれて、この新しい計画の行政に関わる人々……OFSTED⁹⁾やSCAA¹⁰⁾の人々……は、実施可能な方法を静かに見出そうとしている。ナーサリー・ヴァウチャーは果たして具体化されるのか、つぶれ去るのか。——(以上「言葉の戦争」の概要)

これまで見てきた通り、Major 首相の意向を受けてスタートしようとしている Voucher 計画は、その第一段階である特定地域での試行的実施の前の段階でも、評判は決して良くない。このような状況の中で1995年10月13日の TES は、次のような内容の記事を掲載している。

政府の役人は、もっと多くの地方当局が Voucher 計画の第 1 段階に参加するように説得するどたん場の努力を今週続けていた。また、教育次官 (education junior minister) の Robin Squire はプレイグループは結局は最初の予定を U ターンさせてナーサリースクールと同額の 1100 ポンドの満額を提供されるであろうと述べた。

Voucher の第 1 段階である試行的実施には、政府は 12 の地方当局の参加を見込んでいたが、これまでのところでは五つが応募してきているだけである。また、先月には全ての 5 歳児のための学習目標 (learning targets) を提案したが、Major 首相はそれは子どもが小学校へ入学した時に行なわれるテストの土台 (basis) を構成するものでであろうと述べた。これらの諸目的に応えるために、多くのプレイグループは、ナーサリーでは普通であるようなもっと“構造化された教育”(系統的教育のこと)を提供しなくてはならないであろう。

政府のこのような動きに対して賛同するような、例えば Pre-school Learning Alliance (PLA) 会長の Margaret Lochrie のような人物もいれば、逆にそれを批判する LEAs のような組織もある。the Association of Metropolitan Authorities の教育担当官である Alan Parker は、Voucher 計画は間もなく来る選挙戦を意識したものであり、“全く政治的動機に基づいたものであって、教育的な配慮が犠牲にされている”と述べた。

影の文部大臣の David Blunkett は、Shephard 大臣に対して Voucher 計画をスクラップにし、3 歳および 4 歳児に全日のナーサリー教育を提供することを求めた。彼はまた、Voucher 計画をボイコットするという PLA のおどしに政府が降伏したことは、誤った考えに基づく Voucher 計画がもたらした混乱である、と言った。TES はまた、Voucher の全国実施によって小学校が 30 % の財源を失う可能性がある、と同日の紙面で述べている。

さらに、1995 年 10 月 20 日の TES は、三つの地方当局のみが 1996 年 4 月からのパイロット Voucher に参加するであろうという見出しを載せ、教育次官の Robin Squire が国会議員たちに向ってそのことを認めたと書いている。それは、Kensington & Chelsea と Wandsworth と Westminster の三つの London Boroughs である。しかし、実際には Norfolk がもう一つ加わって、四つの地方当局がパイロット計画に加わって実施されることになった。

年が明けた 1996 年 1 月 10 日の TES は、「ナーサリーの席は Voucher の需要に応えるには不足する」という大きな見出しのもとに、「政府の Voucher 計画が来年に全国的に実施される時、ナーサリーの席に対する需要を満たすことはできないであろうことを大臣たちは認めた」と報じた。しかし、ここまで来た以上、政府は Voucher 計画を実施するしかなく、その計画の骨格を示す *The Next Steps*¹¹⁾ と、ナーサリー教育の質の検査の中心的な基準である *The Desirable Outcomes*¹²⁾ の二つの重要文獻を 1 月早々に同時に発行した。その概略は別記したが¹³⁾、ここでは前者について The National Early Years NETWORK が 1996 年 1 月 15 日付の小冊子で報じた Voucher 計画の骨子について、その概要を示しておく¹⁴⁾。下線部分はその中の小見出しで、その下には要点を示してある。

ナーサリー教育計画： 就学前教育 Voucher のための政府の提言

1995 年秋に実施された協議に続いて、政府はナーサリー教育のための提言を二つの文書で同時に示した。

- ・ *The Next Steps* (『次の段階』) —— これは就学前教育の Voucher 計画がいかに展開されるかを記述している。
- ・ 『義務教育就学時における子どもの学習のための望ましい成果』 —— これは Voucher を償

還する施設が提供せねばならない教育的な諸活動のための枠組みを述べている。

Co-ordinate (この *NETWORK* の機関誌名) の 3 月号は幼児教育への Voucher 計画の導入の持つ意味を眺めることになろう。重要な点についての簡単な要約は以下に示した通りである；全体の詳細を知るには前記の二つの文献の文章を読む必要がある。

第 1 および第 2 段階

- ・第 1 段階は 1996 年 4 月に始まり、次の四つの地方当局で実施されるであろう：Kensington & Chelsea, Norfolk, Wandsworth, Westminster である。
- ・第 2 段階は 1997 年 4 月から開始され、全国的に実施される。

評価

- ・第 1 段階での経験は“第 2 段階のための段どりを助けるであろう”が、それはまた、心配をしている人々の見解を考慮することになろう。
- ・完全な評価は、“この計画の完全な実施を待たなくてはならない。”

Voucher は何をカバーするか

- ・全ての 4 歳児の親は、その地域がこの計画に入る時には 1100 ポンドの価値のナーサリー教育ヴァウチャーへの資格が与えられる。vouchers は、参加している schools, pre-schools および playgroups における 3 学期間のために交換され得る。
- ・vouchers は、公立の (maintained) ナーサリースクールないしクラス、および、リセプションクラスの提供がある場合には、そのフルタイムの席までカバーすべきである。
- ・地方当局が維持するセクターおよび直接補助 (grant-maintained) のセクターは、これまで通り授業料は無料であろう；私立およびボランティア・セクターにおいては、親は voucher の価値以上の授業料がかかる場合には voucher の上に上積みになる部分を支払うことができるであろう。

セッションズ

- ・vouchers は三つの学期 (3 terms) にわたって毎週 5 セッションズのナーサリー教育をカバーするであろう。
- ・セッションズは年間 36 週にわたり、各セッションは 2.5 時間前後の長さになることが期待されている。
- ・この計画の全ての提供者は、直ちに週に少なくとも 3 セッションズを提供することが期待されており、自分たち自身が提供するものであれ、他の提供者と連携して提供するものであれ、この計画に参加してから 2 年以内に、週当たり 5 セッションズを提供する方向で活動することが期待されている。
- ・親たちは週当たり 5 セッションズを得るために、一つ以上の提供者をあてにするであろう。

Voucher の発行と償還

- ・Capita Managed Services Ltd. (CMS 社) が第 1 段階の管理を‘支援するために’指名されている。
- ・The Child Benefit Centre (児童福利センター) によって保管されている記録は、有資格の子どもたちの親に応募書類を送るために利用されるであろう。第 2 段階のためには、これは議会の同意を必要とするであろう。
- ・親たちは書類を voucher agency (ヴァウチャー担当窓口) に直接提出することができるであろう。

- ・ Voucher は、三つの学期ごとにそれぞれ五つのパーツから成る 1 枚のシートとなろうが、それぞれのパーツには各個人別の番号が打ってあろう。五つのパーツのそれぞれは、一つの学期につき最低限一つのハーフデイと交換できるであろう。
- ・ 親と提供者は、voucher のパーツが子どもたちの出席している週のセッションの数をカバーするように手渡される時に、一緒にサインをしなくてはならないであろう。
- ・ 提供者は請求書に子どもの名前を記入し、voucher と請求書とを窓口に戻すことになる。支払いは BACS 手形によって DfEE からなされるであろう。送金の手形は提供者に直接送られるであろう。

検査

- ・ OFSTED が検査を組織するであろう。OFSTED は次の事柄に対して責任を負うであろう：検査のための枠組みを開発し、必要ならばそれを改訂すること；新しく補強されたナーサリー教育の検査員の訓練と登録；検査プログラムを組織するためにナーサリー教育についてすでに活動している傘下の組織と多分契約することになる仕事；検査の質を監視すること；教育の提供が不適切と分ったところで国務大臣に報告すること。
- ・ 検査は voucher を有する子どもに提供されている席の教育の質に集中されるであろう。
- ・ 検査は参加する全ての施設に対して継続的になされるべきである。
- ・ 登録および検査のための現行の手配はそのまま残されるであろう。新しい手配は可能な限り現在の検査プログラムと噛み合わせるべきである。
- ・ 検査はその施設において一般的に 1 日ですむであろうが、そのための準備とレポートの作成のためにさらに 2 日かかるであろう。
- ・ 見つかった主要な事柄は、そこでの担当責任者と協議の上で公表されるであろう。
- ・ 検査やレポートのために料金を徴収することはないであろう；施設はレポートや活動計画作成のためのコピーのための料金を要求すべきではない。

最初の承認 (validation)

- ・ 新しい提供者および現存の提供者は、この計画に参加する以前に検査を受ける必要はないであろう。
- ・ 次の施設は最初の承認のための申し込みをすることができる：
 - 1989 年児童法 (Children Act) のパート X に基づいて登録された、あるいは登録を免除された施設
 - DfEE に登録された独立学校
 - 地方当局の維持する学校または直接補助学校
 - 地方当局のデイナーサリー
 - 児童法に基づいて登録されたプレイグループと共同で作ったチャイルドマインダー
- ・ 最初の承認のための資格が与えられるためには、全ての施設は次の事柄への同意を確認しなくてはならない：
 - SCAA によって提案された望ましい学習成果に向かって活動を展開すること
 - 検査 (inspection) を受け入れること
 - 毎年親たちに対して特定のトピックスのリストをカバーするような情報を公表すること；これらのトピックスについては *The Next Steps* という本の中で詳述されている。
- ・ 応募する提供者には、最初の承認のために求められている確認事項を提供できるかどうか

かを決めるのに役立つ自己評価スケジュールが送られてくるであろう。このスケジュールは *The Next Steps* という本の中で公表されている。

最終承認

- ・最終承認は、‘参加する最初の年に通常は行われる’ 検査に対して満足できる結果いかに基づく。
- ・独立学校は通常ほぼ7年ごとにHMIによって検査される。もしナーサリー提供をしている独立学校が Voucher 計画への参加申し込みをして、1年以内に検査を受けて、満足のいく結果が得られた時には、それは自動的に最終承認が得られるであろう。他の全ての独立学校も、承認の申し込みをした1年以内に検査されるであろう。

(紙数制限のため途中であるが、以下は次号へ続く。)

注

- 8) Philip Braidwood, War of the Words, *Nursery World*, 3 August 1995, pp. 8-9.
- 9) The Office for Standard in Education.
- 10) The School Curriculum and Assessment Authority.
- 11) Nursery Education Scheme *The Next Steps*, DfEE, 1996.
- 12) *Nursery Education, DESIRABLE OUTCOMES FOR CHILDREN'S LEARNING ON ENTERING COMPULSORY EDUCATION*, School Curriculum and Assessment Authority, 1996.
- 13) 山田敏, 「Scotland および Northern Ireland における就学前教育の研究」, [平成12年度 学園研究助成金(C) 成果報告書], 相山女学園大学人間関係学部, 2001。
山田敏, 「欧米諸国の就学前教育の実態」, [平成12年度 人間関係学部ケースメソッド・演習プロジェクト 報告書], 相山女学園大学人間関係学部, 2001。
- 14) Nursery Education Scheme: The Government's Proposals for Pre-school Education Vouchers, *The National Early Years NETWORK*, January 15, 1996.

(本稿は平成8年度日本学術振興会特定国派遣研究者〔イギリスB〕としての研究成果の一部である。)